

大阪府のSDGsへの取組み

2020年8月26日

大阪府政策企画部企画室

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsの基本理念

○コロナ禍により、様々な社会問題や課題が顕在化

○社会経済の持続可能性そのものが脅かされ、人々の分断・孤立化・不安が高まる中、人と人とのつながりや支え合う心を取り戻すとともに、**「誰一人取り残さない」というSDGsの理念の具体化がまさに求められている。**

SDGsの基本的な理念

1. 包摂性（誰一人取り残さない）
2. 普遍性（途上国も先進国も）
3. 多様性（国、自治体、企業、市民...）
4. 統合性（経済、社会、環境）
5. 行動性（進捗管理）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs

将来像

SDGsが達成された社会

理念

- ◆ **誰一人取り残さない**
- ◆ **将来世代のニーズを損なうことなく、今の世代のニーズを満たす**

達成ポイント

先端技術を活用した社会課題の解決

特徴

持続可能な社会の実現に向け、世界の大胆な変革が必要となることを、全ての国連加盟国が採択
(人類の英知の結集)

目標年限

2030年

大阪・関西万博

テーマ

いのち輝く未来社会のデザイン

サブテーマ

Saving Lives (いのちを救う)
Empowering Lives (いのちに力を与える)
Connecting Lives (いのちをつなぐ)

コンセプト

People's Living Lab (未来社会の実験場)

特徴

地球規模のさまざまな課題に取り組むために、
世界各地から英知を集める場

開催時期

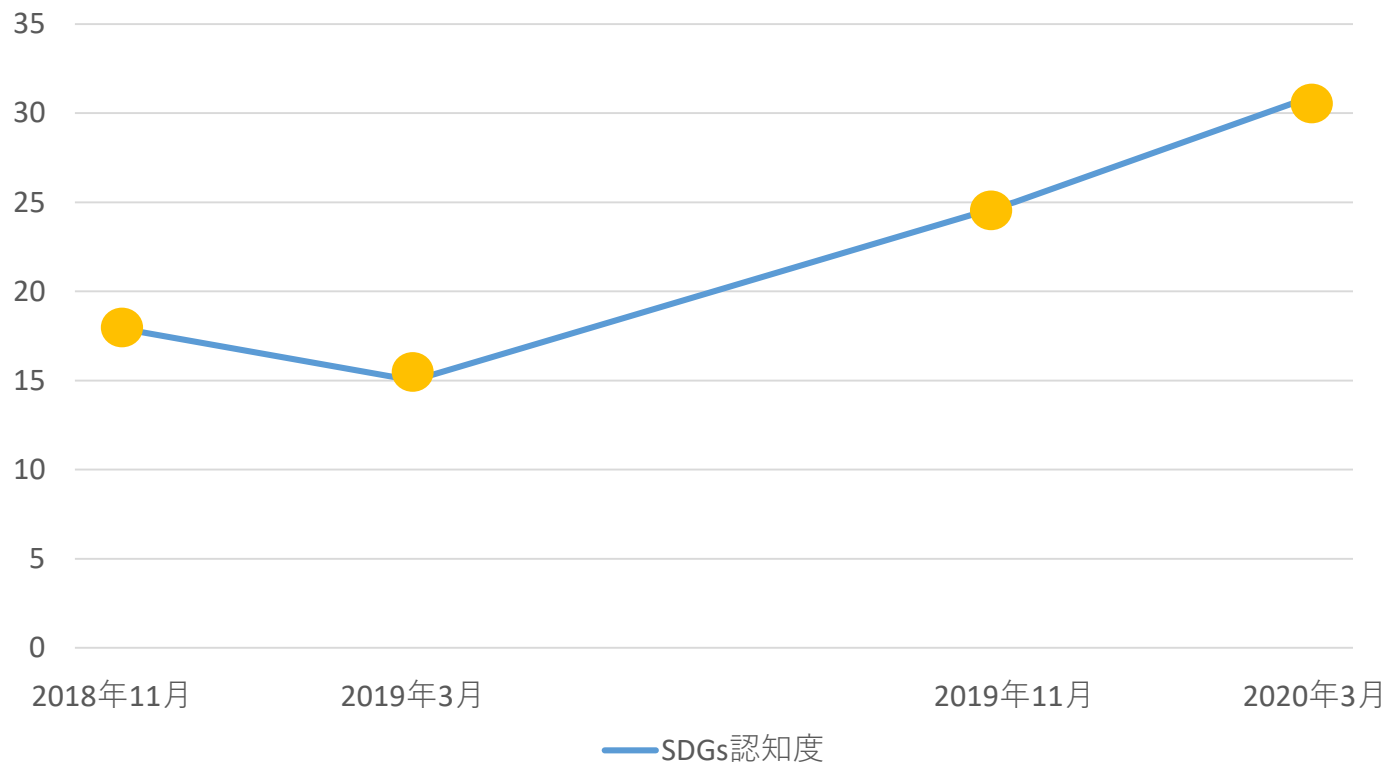
2025年

■SDGs認知度（大阪）

府民全体の認知度は、31%（2020年3月時点）

（単位：％）

SDGs認知度の推移

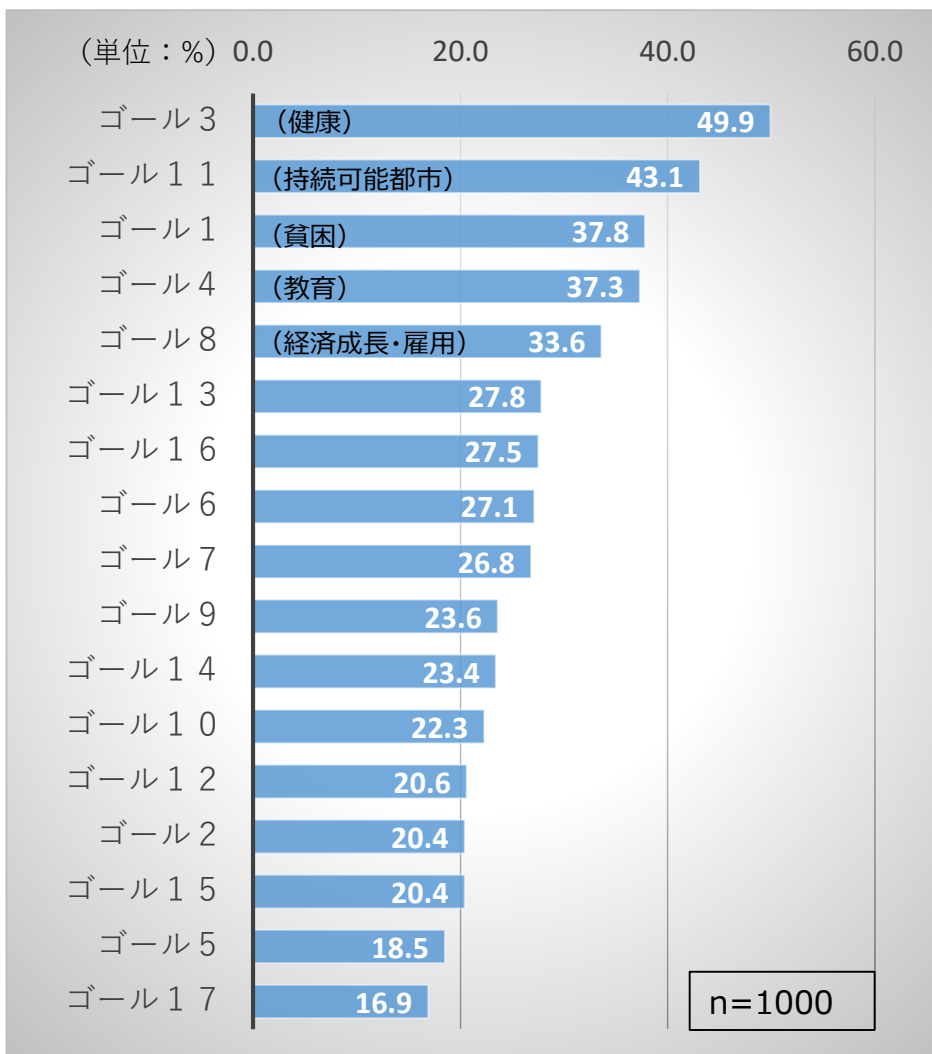


大阪府のネット調査（大阪Qネット）を活用して、府民を対象にSDGsの認知度を調査。
（対象者条件：18歳以上の男女、サンプル数：1,000名）

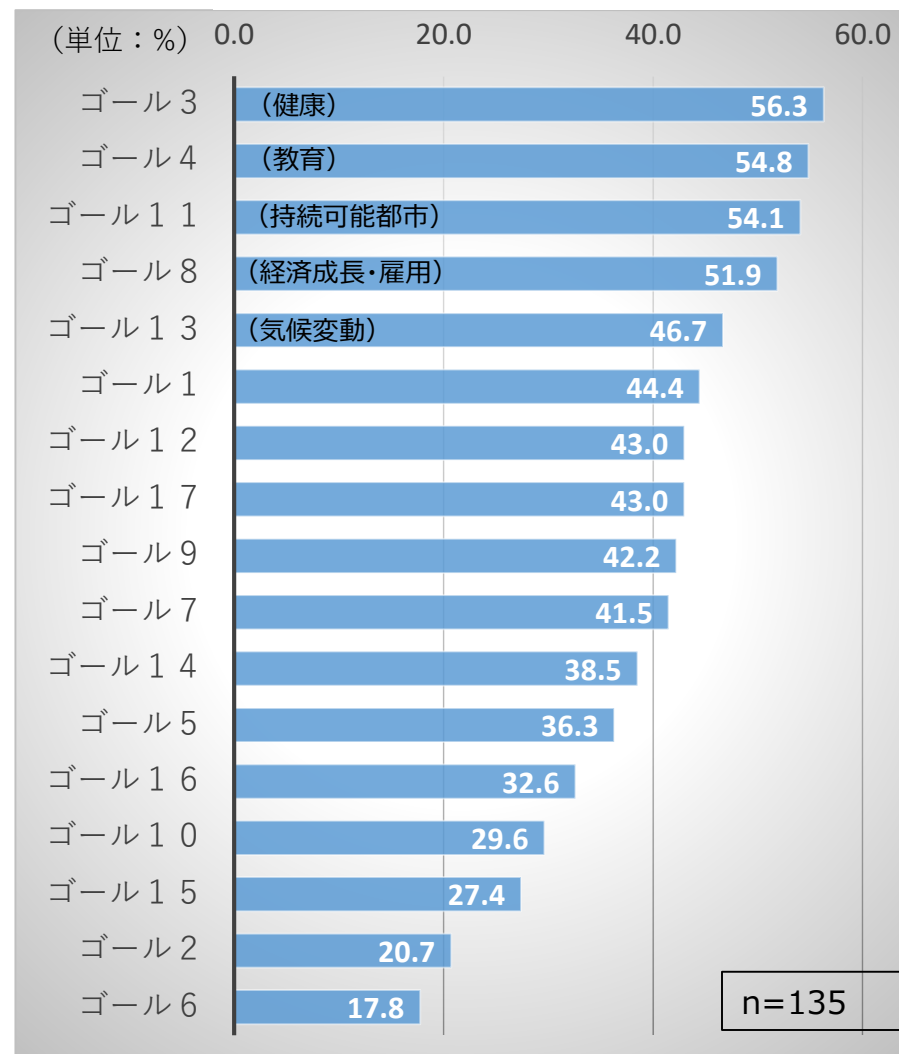
大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール

Q.SDGs17のゴールのうち、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために大阪で重要なゴールは何だと考えますか？

○府民向け調査

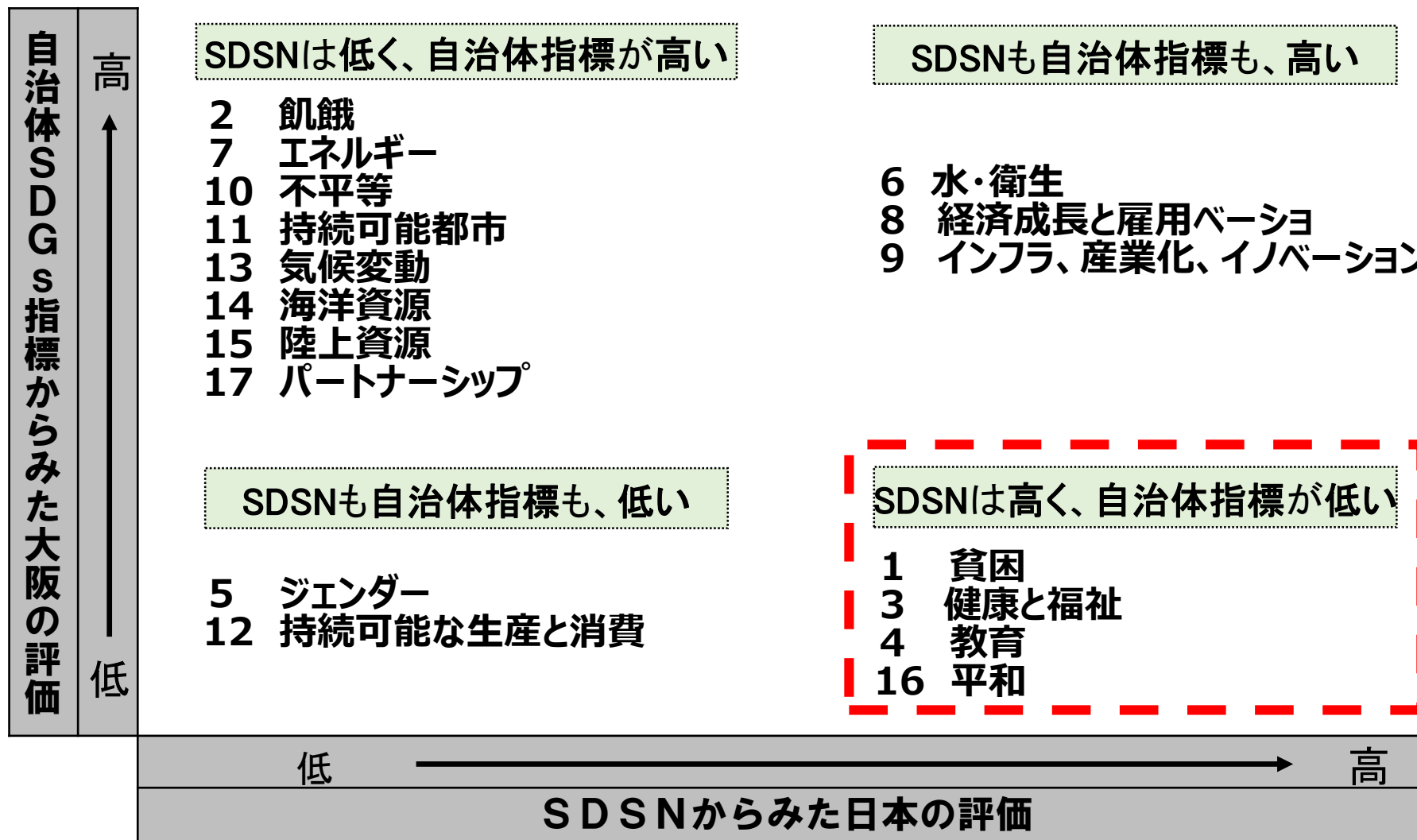


○企業向け調査



大阪におけるSDGs17ゴールの現在の到達点

「国際的な日本の評価（SDSN）」と「国内評価（自治体SDGs指標）」から分析した大阪の評価

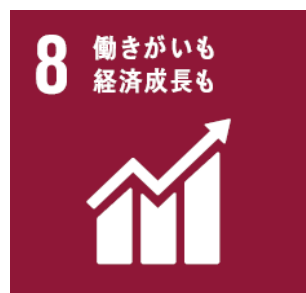


SDGs17ゴールでの大阪の課題と強み

◇大阪で課題が多いと考えられるゴール



◇大阪が強みを活かせると考えられるゴール



◆2025年大阪・関西万博に向けて取り組む「重点ゴール」

国際社会全体の課題であるジェンダーや人権、気候変動への取り組み

ゴール3
「健康と福祉」



重点
ゴールⅠ

(“いのち”や暮らし、次世代の課題としての取り組み)

ゴール1
「貧困」



ゴール4
「教育」



ゴール12
「持続可能な
生産と消費」



(「ゴール3」と関連する横断的な課題としての取り組み)

ゴール11
「持続可能都市」



重点
ゴールⅡ

(他のゴールを集約しながら、様々な課題解決にバランスよく貢献)

産業や雇用、イノベーションといった都市としての強みを活かす

府民の
well-being

地域(大阪)の
well-being

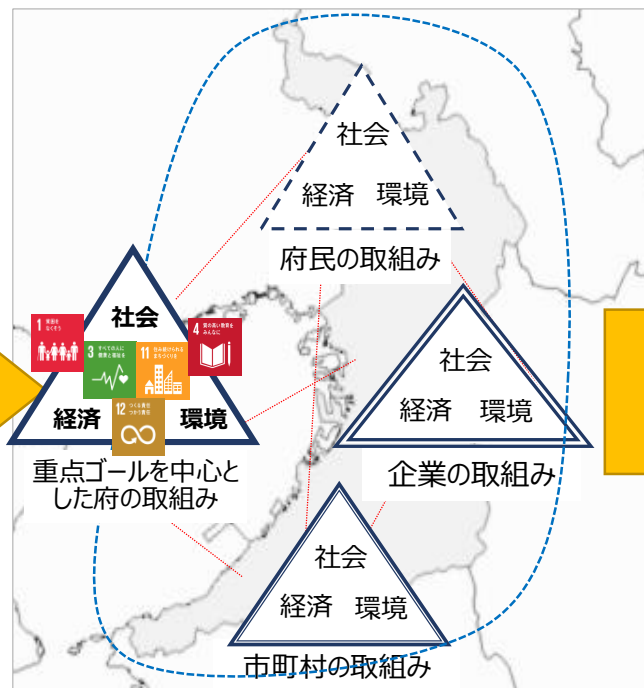
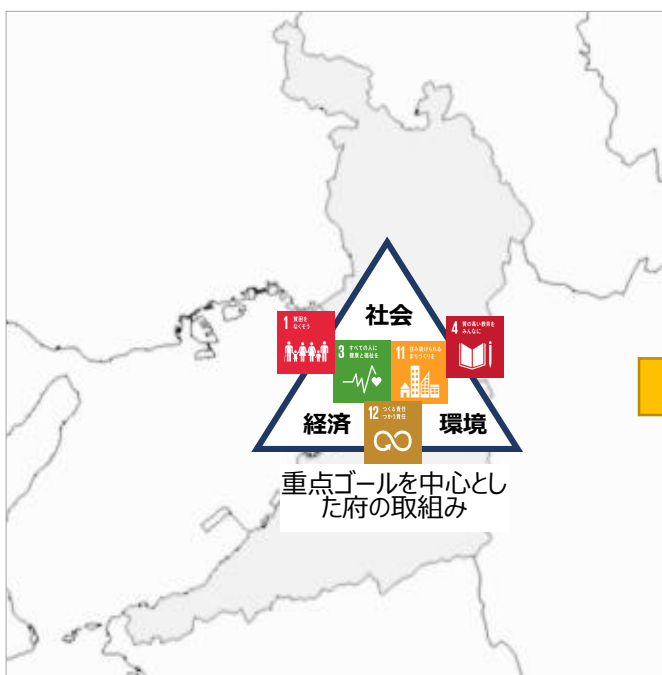
SDGs先進都市をめざして

SDGs先進都市 = 誰もがSDGsを意識し、一人ひとりが自律的に17のSDGs全ての達成をめざしていくこと

→様々なステークホルダーが連携・協調し、「大阪」がSDGsを体現したまちを発信していく

2025年

2030年



万博において、大阪のあらゆるステークホルダーが、会場の内外でSDGsを体現し、行動する姿を世界に発信

日本全体や世界とのつながりの中で、先頭に立って、世界とともにSDGsを達成する

Osaka SDGs ビジョンに沿った2020年度の大阪府の取組み

ビジョンにおける府の役割

主な取組

府民や企業、市町村など、様々なステークホルダーに**SDGsを広く知っていただく**

大学や各種団体等との連携した普及啓発活動

- ・ 大学、企業、団体向けのSDGs講義
- ・ 学生・若者向けワークショップ など

企業等他のステークホルダーと連携した普及活動

- ・ 中小企業向け普及活動 など

様々なステークホルダーの取組みをSDGs実現に向けて**相互につなぎ合わせていく**

ステークホルダー間の連携強化

- ・ 府内市町村や経済界等で構成するネットワークの構築 など

府自らもステークホルダーの一員として、**SDGsに貢献**する

SDGs未来都市としての取組み

- ・ 大阪府、大阪市共同提案
- ・ 重点ゴールに向けた大阪府事業の推進
- ・ SDGs未来都市の拡充に向けた府下市町村への提案支援など

ハード・ソフト両面から「**SDGsを具現化した都市づくり**」を進める

大阪府SDGs有識者会議の設置

- ・ 効果的なSDGsの推進に向けた検討

○「大阪 SDGsネットワーク（仮称）」の創設（年内を予定）

目的：府内市町村や国関係機関、金融機関、経済界、その他自らSDGsに取り組むとともに、他のステークホルダーのSDGsの取組みに貢献する活動を行っている機関が一体となり、相互の情報共有や意見交換、新規事業の創出など、パートナーシップの輪の広がりを図っていく

<イメージ>



○自治体SDGsモデル事業

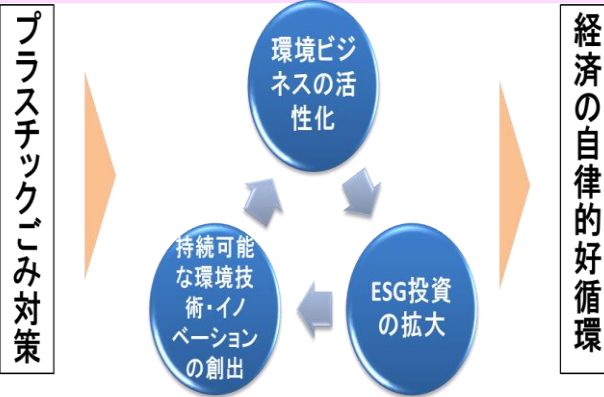
三側面をつなぐ統合的取組

「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進事業

- ①「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画の取りまとめと推進体制の構築
- ②「地域・事業者の連携による新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」の確立
- ③モデル事業をはじめとするSDGsの取組みに関する情報発信と国際協力の推進

① 経済面の取組

- ・海洋プラスチック問題等の解決に向けた環境先進技術シーズ調査普及啓発事業
- ・バイオプラスチックビジネス等推進事業
- ・国連環境計画国際環境技術センター（UNEP-IETC）との連携事業
- ・水・環境技術の海外プロモーション事業



地域事業者の成長のサイクル

② 社会面の取組

- ・マイボトル・マイバッグの普及促進
- ・公共空間における給水スポット設置事業
- ・大阪湾の環境改善、環境意識向上
- ・資源集団回収活動によるコミュニティビジネスの振興 など

マイバッグ協定



給水機の設置

③ 環境面の取組

- ・海洋プラスチック問題等の解決に向けた環境先進技術シーズ調査普及啓発事業
- ・大阪湾の海ごみの回収事業
- ・ごみの減量と3Rの啓発推進事業 など



大阪湾のマイクロプラスチック調査の様子

- SDGsの達成には、民間企業によるイノベーションや商品・サービスが必要不可欠。
- 日本の企業数の99%、従業員数でも約70%を占める中小企業に期待される役割は大きい。

SDGsに取り組むメリット

- ・社会課題に対する新たな市場開拓の機会
- ・企業の信頼性の向上、企業価値向上
- ・人材確保
- ・従業員のモチベーション向上 など



SDGsは新たな事業機会を生み出す「ビジネスチャンス」

まずは、自社の事業活動とSDGsの17ゴールが紐付いてないか確認を



【お問い合わせ先】

大阪府 政策企画部 企画室 推進課

TEL:06-6941-0351

Mail:osaka_SDGs@gbox.pref.osaka.lg.jp

大阪府 SDGs



⇒ HP「大阪府／大阪府におけるSDGsの取組み」